THE ROTARY CLUB OF TAKATSUKI　国際ロータリー　第２６６０地区

高槻ロータリークラブ
2018～2019
WEEKLY BULLETIN

四つのテスト

Ⅰ．真実かどうか

Ⅱ．みんなに公平か

Ⅲ．好意と友情を深めるか

Ⅳ．みんなの為になるかどうか

事務所　オーロラモール高槻西武６階　〒569-1116　高槻市白梅町 4-1
TEL　072-683-1158　FAX　072-683-1174
E-mail　takatsuki.rc@bird.ocn.ne.jp
例会日　毎週水曜日　12:30～13:30
例会場　オーロラモール高槻西武６階　多目的ホール　TEL　072-684-5379
創　立　1954 年 6 月 15 日
会長　伊藤智秋　**幹事**　石田佳弘　**クラブ運営委員長**　河合一人　**会報担当副委員長**　長山正剛

No.28　　2019 年 1 月 30 日　発行

１月は職業奉仕月間

第 3151 回 本日（1/30）の例会

例会場変更（於：桃谷樓）

◎　ソング・・・我等の生業
◎　外部卓話
国際ロータリー第 2660 地区
広報・情報・公共イメージ向上委員会 副委員長
山西　陽祐 様（高槻東 RC）
「My ROTARY の活用について」
◎　例会後の行事
65 周年実行委員会

第 3152 回　次週（2/6）の例会

例会場変更（於：桃谷樓）

◎　国歌・・・・君が代
◎　ソング・・・奉仕の理想
◎　委員会例会
◎　例会後の行事
２月度定例理事会

※2月の誕生、結婚、入会記念月御祝、創業記念月御祝は、2/13（水）例会にて行います。

先週（1/23）の例会から

◎ゲスト・ビジター　　計 0 名

◎出席報告

会員数	出席者数	出席率
51　名	41　名	85.42　%
前々回例会補正後出席率　90.48　% 但し、　Mup　9　名　　欠席者　4　名 出席規定摘用免除有資格者　9　名		

◎Ｒ財団表彰

浜田　厚男　君
第４回　マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

◎会長の時間

20 日の日曜日に「高槻シティハーフマラソン」が開催されました。寒い中多くの方にお集まり頂きましてありがとうございます。あいにく、朝から小雨が降りましたが 8,000 人のランナーが疾走する様に圧倒されました。私はボランティア初参加でしたが、多くの方は毎年参加されていて、西田さんからはお酒とおつまみの差し入れも頂きました。思いのほか楽しい時間でございました。

今年のＮＨＫ大河ドラマも「いだてん～東京オリムピック噺～」ということで、日本で初めてオリンピックに参加した金栗四三（かなぐりしそう）さんと日本にオリンピックを招致した田畑政治（たばたまさじ）さんの物語です。

そもそもマラソンというのは、紀元前 450 年 9 月 12 日 ギリシャのミルティアデス将軍がマラトンに上陸したペルシャの大軍を撃退したというマラトンの戦いが語源となっております。その時に勝利の知らせ（エヴァンゲリオン）をアテナイの元老に伝える為、兵士にマラトンから 40 km離れたアテナイまで伝令に走らせたという故事から来ていると言われております。

マラソンの距離は 42.195km となっておりますが、オリンピックでマラソン競技が実施された当初は、約 40km だったようです。競技距離が統一されたのは、第 8 回パリオリンピック以後で、この時に 42.195km とされました。

インスピレーションになろう

バリー・ラシン　RI 会長

第４回ロンドンのオリンピックの際、ウィンザー城からシェファードブッシュ競技場の 41.843km となっていましたが、ヘンリー７世の王妃アレクサンドラが、「それじゃ見えないから、スタート地点は宮殿の庭、ゴールは競技場のボックス席の前にして。」と言った為に延長されたという逸話があります。この話は皆さんご存知のことと思いますが、私はうろ覚えで「なんだっけ？誰だっけ？」と気持ち悪くなったので、同じ思いの方がおられるのではないかと紹介させて頂きました。

40 ㎞前後と簡単に言っておりますが、2 ㎞走れと言われても私には無理です。端数の 195ｍくらいが限界ではないかと思います。

その昔、マラトンからアテナイまで 40 ㎞走った伝令は力尽きて絶命したという事です。

日頃の適度な運動とバランスの良い食べ物と規則正しい生活が私達の健康にはかかせません。寒い日が続きますがくれぐれも健康には留意されて下さい。

◎幹事報告

・公益財団法人 ロータリー米山記念奨学会より、「第 23 回米山功労クラブ感謝状」が届いております。後方テーブルに置いておりますので、皆様ご覧ください。

・千里メイプル RC より、「創立 20 周年記念誌」が届いております。後方テーブルに置いておりますので、皆様ご覧ください。

・IM2 組フレッシュロータリアン研修交流会が開催されます。入会 3 年未満の会員は是非ともご出席いただきますようお願いいたします。

【日　時】3 月 1 日(金)18：00～20：30
（受付 17：30～）
【場　所】ラフェットひらまつ
【対象者】各クラブ新入会員・入会 3 年未満の会員
※3 年以上の会員も参加可能

・IM2 組ロータリーデーが開催されます。回覧を回しますので、皆様ご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

【日　時】3 月 16 日(土)14：00～16：00
（13：30 受付開始）
【場　所】ホテル阪急エキスポパーク
オービットビル

◎深野会員より

・12 月 25 日付で「大阪ガス㈱」より「びわ湖ブルーエナジー㈱」へ移動が決まりました事を正式にご報告申し上げます。私の後任者は、3 月より入会させて頂く予定です。会長のご指示を仰ぎながら、引継ぎを進めて参りたいと思います。私自身は 2 月末までは、例会に出席させていただきますので、残りわずかではございますが、宜しくお願い致します。

◎1/23 卓上花

カーネーション … 母への愛・純粋な愛

かすみ草 … 清らかな心・無邪気・感謝

◎インフォメーション　　伊藤　智秋

・芥川高校 和太鼓部顧問 佐藤様より、65 周年記念事業への出演とは関係なく、支援要請がきております。

【依頼内容】

現在 日本政府からシリア難民認定を受けながら生活しているのは、たった 6 人で家族は、ラーマーさん一家だけです。彼女は、都立高校生当時にＮＨＫドキュメンタリーで放送されていますが、現在は、地元埼玉県の和太鼓市民サークルで演奏を楽しんでいます。同じ和太鼓でシリア難民支援をしている、芥川高校和太鼓部に興味を持ち、みんなに会いたい、出来れば一緒に演奏したいと思っています。芥川高校シリア実行委員も、大阪にラーマとお兄ちゃんのヤーセル（明大国際日本学部）を招き、話を聞き、可能なら彼女には、シリア難民支援チャリティコンサートに参加してもらい、話もしてもらえれば有難いと考えています。こういう状況ですが、その旅費などにかかる経費の目途がたたずロータリークラブに援助していただければと考えております。

以上が依頼内容ですが、当クラブの目的は、直接シリア難民を支援するものではなく、芥川高校和太鼓部の活動への支援であると思っております。皆様より支援していただいた寄附金は、シリアの方々に直接お渡しする訳ではなく、芥川高校和太鼓部のシリア難民支援の活動資金となります。皆様ご協力をお願い致します。

◎委員会報告

〇青少年奉仕委員会　　内本　　繁

・高槻中学高等学校ンターアクトクラブよりクリーンハイクのご案内が届いております。当クラブは提唱クラブでもありますので、多くのご参加を宜しくお願い致します。

【日　　時】2019 年 2 月 21 日(木)　15：40～17：15
【集合場所】高槻中学高等学校　正門前
【集合時間】15：30
【ル ー ト】行き道：国道 171 号線経由　芥川公園へ
帰り道：みずき通り経由　学校へ
【持 ち 物】軍手、飲み物、タオル、ゴミ袋、
※動きやすい服装

・今年 8 月に地区の IAC 海外研修が予定されております。当クラブが担当クラブとなっており、3 月に第 2 回 IAC 海外研修視察旅行を計画しております。御同行していただける方がいらっしゃいましたら、どうぞ宜しくお願い致します。

【日　程】3 月 21 日(木)～3 月 24 日(日)　3 泊 4 日
【渡航先】バンコク
【費　用】概算 17 万～18 万円位

〇社会奉仕委員会　　稲富　博文

・2019 年 1 月 20 日(日)　第 27 回高槻シティハーフマラソンが開催され、無事終わる事が出来ました。ボランティアスタッフとして、実行委員としてご参加いただいた皆様、ご協力頂きましてありがとうございました。

○社会奉仕委員会　　稲富　博文

・「親子で見て聴いて楽しもう！クラシックコンサート」開催されます。このコンサートは 4 年前から 2 年おきに開催されております。皆様に寄附の御協力を願い申し上げます。回覧を回しますので、多くの皆様に御協力いただきますようお願い申し上げます。

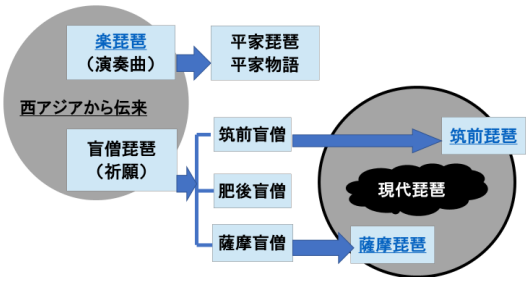
【日　時】3 月 23 日（土）13：30 会場　14：00 開演
【場　所】クロスパル高槻　8 階イベントホール
【定　員】100 名
【出演者】井前 慶子（バイオリン）
　　井前 典子（ピアノ）
　　治京 真紀（書道・絵）
【賛助出演】辰村 千花（ピアノ）
　　田邊　織恵（ソプラノ）

◎卓話

「　高槻名誉市民山崎旭萃と琵琶　」

馬渕　晴彦

琵琶音楽の歴史



経歴

西暦	元号	年齢	経歴
1906年	明治39	0才	大阪市西区江之子島に生まれる
1916年	大正5	10才	倉増旭陵に入門、本格的に琵琶を始める
1922年	大正11	16才	山崎旭萃会を創立
1964年	昭和39	58才	琵琶と詩吟を融合した「大和流琵吟楽山崎光掾会」を創始
1969年	昭和44	63才	高槻に移住し、地域文化の貢献
1995年	平成7	89才	人間国宝・高槻名誉市民に認定
2006年	平成16	100才	死去

①　生い立ち

1906 年（明治 39 年）：大阪市西区江之子島に四人兄弟の末っ子として生まれる。
父は椅子を商っており、たくさんの職人がいてた。祖父は大阪で初めて椅子というものを製造し、旭萃は「椅子屋の娘」と呼ばれていた。

末っ子で臆病で体も弱かった。いつもお医者に掛かりぱなしであった。「しんどい」「しんどい」と言うので、医者が「これからは一つ、お腹から声を出すものを教えたらどうか」と勧められ、好きな琵琶を習うようになった。

【人生ポイント１】琵琶楽に感動

親が商売をやっていたので、旭萃は活動写真を週２，３回見に映画館に行ったりしていた。映画としてはお姫さんが出てきたり、打ち掛けを着たような人が出てくる映画が好きであった。その頃大阪は、大正後期から昭和初期にかけて「大大阪」と言われ、芝居小屋が並び、江之子島・福島等の地区、特に大娯楽場「楽天地」があった。旭萃は無声映画で、弁士の横に筑前琵琶奏者が話の情感を琵琶の音色で盛り上げ、哀調を帯びているに感動した。

両親から「そんなに琵琶が好きやったら、お腹から声を出せることやし、ひとつ習わせたらよかろう」となった。

8 歳の時琵琶を手にする。小学校 5 年ぐらいから倉増旭陵先生に琵琶を習い始め、めきめき腕をあげる。

小学校卒業時「女学校に行くか、高等小学校に行くかに両親から、「女学校に行くなら琵琶をやめろ。琵琶をやりたければ女学校をやめろ」といわれ旭萃は琵琶の道を選んだ。

②筑前琵琶奏者に

14 歳（1920 年）ぐらいで教授免許を取り教え始める。16 才で旭翠会を設立し、17，8 才の頃には門人が 40 人ほどになっていた。倉増旭陵会では花形であったが、「名もないような会に属していては」との進言で筑前琵琶の橘会に転門する。

【人生ポイント２】芸の厳しさを学ぶ

橘会では基本がきっちりと決められており、基本を崩すことはできない。宗家の先生について初めて芸というものはこういうものかということが分かり、『芸の深さに触れることができた』。

③苦労の人生

お弟子さんの紹介で、18 歳の時 7 つ年上の鹿児島出身のご主人と結婚する。ご主人は　大阪の船の運送会社「大阪商運」に勤め、月 50～60 円ぐらいの薄給であったので、19 才から本格的に琵琶を行うが月謝は実家から出してもらった。そんな中、昭和 20 年鹿児島での疎開が始まった。

【人生ポイント３】人生の生き方を学ぶ

鹿児島に行き、先生と呼ばれた身も農村では無能と知らされた。ゼロからやり直す思いで姑に仕えた。インタビューにも「貧乏はいたしましたが、田舎に行きましたおかげで、人間の生き方というものについては、本当に良い勉強をさしてもらいました。」　「甘えも虚栄心も吹っ飛んだ。心が鍛えられ、ほんまの人間になれたんや」と感激された。

寝たきりになったご主人を抱えて、辛酸を克服された豊かな人生経験が、旭萃の音楽を一層味わい深くしている。

④琵吟を起こす

1964 年 58 才のとき、初代旭翁の了解を得て、「大和流琵吟楽　山崎光掾会」を創立した。戦後 GHQ の取り締まりで衰退した琵琶を、復興・発展させようと、親しみやすくわかりやすくするために琵琶＋詩吟＝琵吟を考えた。詩吟は琵琶に比べて文句が短い。詩吟の良いところを取り入れ、琵琶は最低でも 30 分はかかるが、琵吟は 10 分ぐらいで表現することができると考えたからである。

⑤人間国宝に認定

1969 年：63 歳の時高槻に住まいを移られ、津之江、宮田と居を移された。引き続き琵琶の普及、振興に尽くし、演奏や講演を通じて地域文化の発展に大いに貢献なさった。そして、1995 年：89 歳の時人間国宝・高槻名誉市民に認定された。

⑥山崎旭萃の信条

１．「何事にも、寛容と真実の愛情がなければ、和がうまれない。」　⇒包容力のある人間になること
２．歳に負けてはいかん！
　　そやけど慢心してはいかん！

以上、ご清聴ありがとうございました。

◎卓話

「 コミュニケーションについて考える 」

河合　一人

➢　コミュニケーション

我々が社会で生きている限り、他人とコミュニケーションを全く取らずに生活する事は不可能です。その為、コミュニケーションに対する人々の関心はとても高くて、世の中には、コミュニケーション能力の向上を謳ったトレーニングや書籍等が溢れています。

それらのものは、「如何に上手く伝えるか」こう言った事に主眼を置いているものが多い様です。

実際に言葉の検索をして見ると、「伝達」、「通信」、「交流」、「情報伝達」こんな言葉が並んでいます。

一例を挙げると、「社会生活を営む人間が、互いに意思や感情、思考を伝える事。言語・文字・身振り等を媒介して行われる」とあります。

ただ、コミュニケーションの語源は、ラテン語のコミュニスから来ています。そして、このコミュニスは、「共通の」、「共有する」或いは「分かち合う」と言った意味で使われて来ました。

だとすれば、コミュニケーションとは「伝える」と言った行動以上に、何かを「共有する為のプロセス」と考えた方が良いのかも知れません。

実は、他人とのコミュニケーションに於いて、しばしば、伝える側の意図と受取る側の認識に齟齬があり、お互いに「伝えたつもり」や「解ったつもり」になっている事がよくあります。

また時には、「これぐらい話さないでも解るだろう」という思い込みから、「内容を充分に伝えていなかった」そんな事が起きたりします。

前者をミスコミュニケーション、後者をディスコミュニケーションと呼び、いずれの場合も、「共有する」といった本来の目的や「分かち合う」と言った視点が、大きく失念している事から生じています。

➢　コミュニケーションエラー

一方、大半の仕事は、一人で完結するものではありません。人と関わるサービスの領域が増えていますし、そうでなくてもチームの垣根は、平気で国境をまたぐ様な時代です。その意味でも特にビジネスシーンでは、コミュニケーションの重要性がますます高くなって来ています。そして、それに比例してコミュニケーションによるエラーが増えている。

また、コミュニケーション頻度が高まる一方で、対面のリアルタイムのやり取りが減っています。更には、メールやSNS等、文章ベースでのやり取りが増えて来ているのも、コミュニケーションエラーの増加に拍車をかけているのかも知れません。

但し、このコミュニケーションエラー「キチンと伝える」或いは「チャントと聞く」そう言った心構えのレベルで改善出来るものではありません。きちんと伝えてもその通りには伝わらないし、チャントと聞いても正確には聞けない。

これは脳科学や認知科学が近年、明らかにしてきた大きな発見です。

他方、「コミュニケーションはキャッチボールである」これは研修やセミナー・多くの書籍では、必ず言われている事です。この例えから派生して「相手の受取りやすいボールを投げましょう」また、「相手がきちんと受取ったか確認しましょう」実際にこんなアドバイスが行われたりします。

このキャッチボールの例えは、本当に解りやすいのですが、残念な事に最も重要な視点が省略されています。そしてその事が、コミュニケーションについて誤解を生み、結果的にコミュニケーションミスを誘発する原因にもなっています。それは、次の視点です。

人が自分の記憶にある経験を他人に話す時、実際にその記憶の全てを言葉にしている訳ではありません。何故なら、全てを言葉にしていては、回りくどくて会話が成立しないからです。ですから、その時話し手は、必ず情報を「省略」して話をします。

例えば私が「昨日、Aさんと一緒に酒を飲んだ」と当会メンバーの誰かに話をしたとします。聞いた人も特に違和感を覚える事は無い筈です。

ただ今の場合、「昨日」と言っても、それが朝なのか昼なのか、或いは夜なのかが解りません。また、Aさんと言っても当会メンバーのAさんとは限りません。場所についても高槻なのかどこなのか、そもそも料理屋なのか飲み屋さんなのかも省略されています。

研修や書籍的に言うと、次の様になります。

「昨日私は、学生時代の先輩であるAさんと、夕刻午後6時から、大阪市中央区東心斎橋・八幡筋にある中華料理店『●●●●』というお店で、鳥の唐揚・酢豚更には餃子をあてに、生ビール3杯と日本酒2合を飲んだ。その後8時半から場所を移動して、直ぐ近く・三ッ寺筋にあるアットホームな雰囲気のラウンジ『▲▲▲▲』に行き、・・・・・」

何もこんな回りくどい言い方をしなくても、普段は「何が省略されている」と言う事をわざわざ意識せずにコミュニケーションが成立します。

もっとも気になるところは質問したりすると思います。しかし、「ここが省略されている」という事を普通は認識しません。

では何故、情報が省略されていても「聞く」事ができるのでしょうか？

それは、話し手の言葉に、聞き手の持っている記憶が無意識に反応し、省略された部分を自動的に補完しているから。

「昨日、Aさんと一緒に酒を飲んだ」という話を聞くと、聞き手自身の記憶にあるイメージが無意識に湧いて、実際には断片的な情報しか伝わっていないのに、妙に理解した気分になってしまう。

但し、重要なのが次の事柄です。

話し手の中にある「昨日、Aさんと一緒に酒を飲んだ風景」と、聞き手が想像した「昨日、Aさんと一緒に酒を飲んだ風景」とは、勿論異なります。蓄積してきた「記憶」が違うので、結果が違って当然です。

良く考えると当たり前の事です。ただ、こうした話し手と聞き手の思い浮かべるイメージのギャップを普段のコミュニケーションでは、恐らく殆どの人が自覚していない筈です。表でやり取りしている言葉に気を取られ、自分や相手の中で起きている事に注意が向いていない。

これこそがコミュニケーションエラーの最大の原因となる訳です。

今日は、コミュニケーションについて少し考えてみました。

人は、全てをしっかり見ている、しっかり聞いていると思っていても、実際には、自分が見たいように見て、聞きたいように聞いている。

コミュニケーションによるミスをなくす為には、「キチンと伝えてもその通りには伝わらない。チャント聞いても正確には聞けない」先ずその事を受け入れる事が最も重要なのだと思います。

◎ニコニコ箱報告

・誕生記念内祝　石田君、
　　馬渕君（えらい年です。もう少し…。）
・入会記念内祝　波々伯部君
・ご家族お悦び　山口君(丁度、嬉しいことがありました)
・高槻ハーフマラソン、雨の中お疲れ様でした。名ばかりの副チーフで申し訳ございませんでした。　藤田君
・第４回マルチプル・ポール・ハリス・フェローをいただいて。　浜田君
・先週はお休みしましてすみませんでした。　石田君
・高槻市ハーフマラソン大会、大勢のボランティア参加ありがとうございます。　伊藤君
・卓話の機会を頂いて。　河合君
・芥川高校和太鼓部の皆さん頑張って下さい。　香西君
・クリスマス御礼。ありがとうございました。乗って帰れませんでした。　馬渕君
・卓話ありがとうございます。ふるさとの話なら、いつでもどこでも…。　馬渕君
・ISO－9001 認証取得出来ました。　白石君

本日の合計　　￥　65,000-
7/1 よりの累計　　￥ 1,327,000-

◎R 財団への寄付

河合　一人君　￥5,000-　香西　徳治君　￥5,000-

本日の合計　　￥　10,000-
7/1 よりの累計　　￥540,000 -
一人当たり平均　＄92.72

◎米山奨学会への寄付

石田　佳弘君　￥5,000-

本日の合計　　￥　5,000-
7/1 よりの累計　　￥ 372,500-
会員より　￥　245,000-
ｸﾗﾌﾞより　￥　127,500-
一人当たり平均　￥7,163-

◎青少年育成基金への寄付

伊藤　智秋君　￥5,000-　白石　純一君　￥5,000-

本日の合計　￥　10,000-
7/1 よりの累計　￥　555,000-